

住んで、食べて、遊んで、良し

一人一人が情報発信

震災の風化防止

震災の風化が懸念されています。忘れてはいけません。震災の記憶を県外に受け継いでいくにはどうすれば良いでしょうか。

本 入社後の研修 震災時の復旧に関する 取組の振り返り。震災の記憶を後世に伝える

小野寺 若い世代に、震災と原発事故について しっかりと知ってもらわなければならない

加藤 体験談を語り継ぐのが大事なのではないでしょうか。若い自分たちが、他県から訪れた人に福島の良い姿を伝える努力をしなければなりません。

内堀知事 時間の経過による風化を止めるのは難しく、その中で何ができるのかを考えるのが大切です。大事なのは発信し続けること。県民同士で、震災と原発事故について意見を交わしていくとともに、県外の方には復興が進んだ「光」の部分と、まだ十分ではない「影」の部分の両方を率直に伝えていきたいと思います。

ためには映像の活用が有効です。 時間の経過とともに風化が進むのはやむを得ません。ただ、県民一人一人が、相手の心の奥に届くような正確な情報発信を続けていくのが重要です。

高根 震災当時の怖さは忘れられません。震災と原発事故を風化させないため情報を発信し続けます。何度も同じ話をしなければなりません。自分たちが感じた恐怖を生々しく伝える必要があります。

て、記憶に焼き付けてもらいます。 時間の経過による風化を止めるのは難しく、その中で何ができるのかを考えるのが大切です。大事なのは発信し続けること。県民同士で、震災と原発事故について意見を交わしていくとともに、県外の方には復興が進んだ「光」の部分と、まだ十分ではない「影」の部分の両方を率直に伝えていきたいと思います。



アポロガス 小野寺 駿介さん

2019年（平成31年）3月6日（水曜日）

